

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	北区
学 校 名	大阪市立豊仁小学校
学校長名	泉野 泰久

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立豊仁小学校では、第6学年 73 名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語では、平均正答率は大阪市を1ポイント上回り、全国では－0.7であった。また、算数では、正答率は大阪市では5ポイント、全国では3.6ポイント上回った。平均無回答率では国語、算数ともに大阪市、全国よりもずっと少ない。児童一人一人が真摯に問題に取り組んでいたことがうかがえる。

児童質問紙では、自尊感情や自己肯定感、自他の尊重、規範意識などどの項目も肯定的に回答する児童が多い。また、学習においては、ICTを活用した学習を進めている児童が多いことがうかがえる結果となっていた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

平均正答率は、「書くこと」においては大阪市を上回ることができ、「読むこと」においては、大阪市、全国平均を上回った。「話すこと」「聞くこと」においては大阪市、全国ともに下回っており、今後さらに充実できるよう取り組む。

〔算数〕

平均正答率において、すべての領域において大阪市、全国を上回ることができた。引き続き、基礎学力の定着に取り組んでいく。

質問調査より

基本的な生活習慣においては、大阪市、全国平均とほぼ同様の結果であるが、ゲームをする時間が他よりも長いという結果が出ている。

また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」に肯定的に答える児童は9割を超え、他者を思いやる児童が多いことがわかる。今後も取り組みを継続して、豊かな心の育成に努めていく。

今後の取組(アクションプラン)

・調べ学習や、話し合い活動を通して対話的な学びあい活動をすることにより、児童の学びが深まるよう取り組む。

・ICT活用についての教職員の研修を充実させ、児童のICT教育を推進する。

・学校と家庭での学習の一貫性が大切であることを保護者に伝え、一層の学力向上に取り組んでいく。
